

12 看取りの定義・概念

【問 14】

問 14 貴施設において看取りとはどのようなこと（定義・概念）だと考えていますか

介護老人福祉施設

- ・これまで頑張って生きてきた方が最期を迎える場。苦しむことなく静かに穏やかに過ごしたい。
- ・最期を平穏にむかえる。
- ・看取りの介護は、利用者が医師の判断のもと、回復不能に陥ったときに最期の場所及び治療等について、本人の意思並びに家族の意向を最大限に尊重するものである。
- ・施設における看取りとは苦痛なく穏やかな環境で親しい人々に見守られ最期を迎えられるよう配慮し過ごして頂く事だと考えます。
- ・近い将来、死に至ることが予見される方に対し、身体的、精神的苦痛、苦悩を出来るだけ緩和し、死に至るまでの期間、その方なりに充実して納得して生き抜くことが出来るように、日々の暮らしを営むことが出来るよう支援することである。また、対象者の尊厳に十分に配慮しながら終末期の介護を行うことである。
- ・利用者、家族によりそい、いかに利用者や家族の希望に近い最期を迎えられるサポートができるか、少しでも安心して最期を迎えられるサポートができるか、だと考えています。

介護老人保健施設

- ・近い将来、死に至ることが予見される方に対し、その身体的、精神的苦痛、苦悩をできるだけ緩和し、その方なりに充実して納得して生き抜くように、日々の暮らしを営めることを目的として援助することであり、対象者の尊厳に十分配慮しながら終末期のケアを行うこと。
- ・ご利用様が医師の診断のもとに回復不能な状態に陥った時に、最期の時を過ごす場所及び治療、介護等について、ご本人の意思並びにご家族の意向を最大限に尊重して行うターミナルケアの規定を取り決め、可能な限り個人の尊厳と安楽を保ち、安らかな死をむかえられる、全人的ケアを提供して、ご利用者様及びご家族の支援を最後の時点まで継続すること。
- ・医学的に回復の見込みがないと判断された入所者様が安らかな最期を迎える為に、入所者様、ご家族の意向を取り入れ、多職種共同でケアを提供する。

小規模多機能型居宅介護

- ・看取りは、今までの人生の集大成であり本人様をはじめ関係者の旅立ちに対しての準備でもあると考える。そして、そのタイミングや時期などが急であることもあり、全てが整うということが無い場合もあるが、それはそれで看取ることには変わりはないと思う。又、それぞれの形があり多様性、個性が極めて高い事であるとする。
- ・本人、家族、親類、医師、看護、その他のサービス、関係者、施設スタッフ全ての方々が同じ方向を向き、連携を図り可能であれば穏やかで苦痛なく最期を迎えてほしい。
- ・本人様の思い（最期をどこで、誰と）を尊重し、本人様の思いにこたえ、対応し、人生の最期を安心して過ごせるようにお手伝いしていく事が大切。
- ・終末期を、家族やご本人様に寄り添ってサポート支援すること。

- ・関係者が安心できる環境で最期を迎えること。

- ・ターミナル体制加算を取得しておらず、積極的に看取りを行う体制にはなっていない。施設にもそれぞれ役割があり、特にグループホームは夜勤1名（介護職員）、看護職員の常駐なしとなっており職員の負担が大きい。

- ・対象者が少しでも心穏やかに生活し、自分らしく最期を向かえることが出来るように支援したいと思っています。

- ・最後までその人らしく穏やかに孤独でなく生きること。

- ・日常生活の延長、普段のケアの延長。

- ・住み慣れた環境、空間において、最期の時まで、家庭的な雰囲気の中で送ることができる環境づくり。人が人として終えることができるよう、サポートすること。

- ・看取り介護は利用者が医師の診断のもと、回復不能に陥ったときに最期の場所及び治療等について、本人の意思ならびに家族の意向を最大限に尊重するものである。可能な限り尊厳と安楽を保ち、安らかな死が迎えられるよう努める。

- ・近い将来、死に至ることが予見される方に対し、その身体的、精神的苦痛、苦悩をできるだけ緩和し、その方なりに充実、納得して生き抜くことができるように援助すること。

- ・多様な疾患等による「重度化」、慢性疾患と老化が進んだことにより、心身が衰弱し、医学的知見に基づき回復の見込みがないと医師に判断される「看取り」状態をいう。

- ・住み慣れた環境、慣れたスタッフに囲まれ、安心して最後を迎えることができる場であると考えますが、認知症の方々の本心がどうであるかは理解できかねる部分も多い。

- ・本人様の思いを尊重し、本人様の思いにこたえ、対応し、人生の最期を安心して過ごせるようにお手伝いしていく事が大切。

- ・高齢の利用者様をお預かりする以上は、最期の時間まで責任をもって共に過ごし暮らしていく事と思い支援をしております。

- ・看取る(看取られる)≠亡くなる本人の満足(納得)。誰のための、看取りなのか。時期が近づいてからではなく若いうちから、考える機会を持たないと定義も概念も…。

- ・不安苦痛を可能な限り取り除き、よりそってご本人が最期の時まで安心して過ごせること。

- ・家族様や本人様が望むのであれば住み慣れた施設で最後を迎えることは、良いことだと思うし、そうであればできる限り協力していきたい。しかし医療的支援要素が強い方などに関しては、医療が充実した次のお住まいにおつなげすることも大切なことだと思っている。

- ・不安苦痛を可能な限り取り除き、よりそってご本人が最期の時まで安心して過ごせること。

<p>特定施設入居者生活介護</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本当は入居者は家に帰って最後を迎えたいが、できない。家族もそうしてあげたいが不安や事情がありできない。その代わりとなる今まで住み慣れ生活した環境で不安なく最後を迎えるための支援であると思います。又、不安である家族に寄り添い、一緒に和やかに看取る支援だと思っています。</li> <li>・ご入居者がその人らしく生き、その人らしい最後を迎える事。</li> <li>・その人らしく生き抜く生活の一部として捉えています。</li> </ul>
<p>短期入所生活介護</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・在宅介護を支える施設サービスとして、どこまで、その利用者の家庭に近付くことが出来るのか、究極の挑戦テーマの中核だと考えます。</li> <li>・短期入所の施設なので、基本的には救急搬送を行うことにしている。</li> <li>・最期を平穏にむかえる。</li> <li>・死が避けられない状態の利用者様に対し、身体的苦痛や精神的苦痛を緩和させ、穏やかな最期を迎えられるよう本人の意思を尊重しながら援助することだと考えます。</li> <li>・施設における看取りとは苦痛なく穏やかな環境で親しい人々に見守られ最期を迎えられるよう配慮し過ごして頂く事だと考えます。</li> <li>・近い将来、死に至ることが予見される方に対し、身体的、精神的苦痛、苦悩を出来るだけ緩和し、死に至るまでの期間、その方なりに充実して納得して生き抜くことが出来るように、日々の暮らしを営むことが出来るよう支援することである。また、対象者の尊厳に十分に配慮しながら終末期の介護を行うことである。</li> <li>・その人らしく生き抜く生活の一部として捉えています。</li> </ul>
<p>高齢者向け住宅 サービス付き</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本人様の思いを尊重し、本人様の思いにこたえ、対応し、人生の最期を安心して過ごせるように支援していく事。</li> </ul>
<p>有料老人ホーム等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ご本人が生きた事に満足して旅立つこと。残されたご家族が納得した最後を受け入れられること。</li> <li>・本人ができるだけストレスなく過ごせるようにサポート。家族(本人)の協力と同意。状態観察と家族、医師情報共有。</li> </ul>
<p>養護老人ホーム</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・その人らしく生き抜く生活の一部として捉えています。</li> </ul>